

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット 大地の翼		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	令和4年11月28日	評価結果確定日	令和4年12月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の運営理念『地域の人と交流しながら、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指します』を掲げ、同一目線、コールの駆けつけ、傾聴を大事にして利用者様と接していけるように努力しています。毎朝体操の他に、発声練習や身体全体の運動を行い残存機能維持に努めています。トイレ介助時や入浴時に皮膚の観察を行い、状況に応じた軟膏塗布等をして悪化防止に努めています。今年は家族会を開催出来なかったこともあり、お手紙で利用者様の状況の報告と写真を添えて毎月送付しています。毎月のミーティングでは個々の利用者様の状況・状態を確認し合い、支援に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝礼で理念の唱和を継続し、「同一目線、コールの駆けつけ、傾聴」に務め、安心して暮らせるホーム作りに励んでいる。毎月のミーティングは職員が交代で書記を勤め、定刻を越した活発な意見交換に、毎回参加している代表者からは謝辞がある。職員の提案は「先ずやってみよう」と試行し、膀胱留置カテーテル抜去後トイレで排泄できた事に、「ありがとう」と感謝する入居者の姿は職員の励みとなり、全職員で新たな尿路感染防止に取り組んでいる。熱発などで入院をされた入居者もあるが、家族とともに主治医より病状の説明を受け、今後の暮らしを模索し、経口摂取ができる間はホームでの生活を支援する予定である。昨今の状況から、地域行事や家族会、運営推進会議は中止となっているが、近隣の方などから季節の野菜などの差し入れが継続し、家族には個々の暮らしぶりをホーム便りなどで報告し、理念の「地域の人と交流」できるのを待ちわびる日々である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム うぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念を唱和し、心新たに利用者様と笑顔で接するように努めています。	朝礼で理念の唱和を継続し、「同一目線、コールの駆けつけ、傾聴」に務めている。時に早口で唱和するだけになっていないかと振り返り、毎月のミーティングでは、安心して暮らせるホーム作りを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に参加していますので回覧板を通して地域の情報を得ています。出来るだけ行事には参加するように心掛けています。元利用者様家族より清拭の布や野菜等をいただいています。	自治会加入を継続している。昨今の状況から、恒例だった公民館での敬老会は中止となっているが、元家族や近隣の方、知り合い等から野菜や果物、陰部清拭用の布などの差し入れが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスのため交流がなく、あまり出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染予防のため開催中止としました。当施設内で行った行事の内容などについての報告は開催中止の案内とともにしています。	感染予防に配慮し、令和4年も運営推進会議は中止しているが、毎月のミーティングで行事や個々の入居者の状況を時間をかけて話し合い、サービスに活かしている。	運営推進会議設置目的を勘案し、メンバーに毎月のミーティング内容をまとめた書面を2ヶ月毎に送付し、意見の表出を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所から毎月空室の問い合わせがありこちらからも報告することがあります。また、利用者様の状況報告や情報交換を行っています	市担当者からの居室状況の問い合わせに答え、入居には至らなかったが紹介を受けるなど、日頃から情報を交換している。定期的に来所する保護課職員に、暮らしぶりや預り金の収支を報告する入居者もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の変化していく状態を確認しながら、拘束しないケアに取り組んでいますが、事故防止のため、玄関、勝手口は施錠しています。また、拘束する必要性を認められたら家族了解のもと、拘束会議を開催するようにしています。	家族の了解を得て夜間のみ使用しているペット柵は、コール時は外してトイレでの排泄を支援し、外出傾向のある方はソワソワと動き始める雰囲気から言動を見守るなど、適正化に務めている。以前家族会で提案された玄関の施錠は、家族の了解を得て防犯に配慮して現在も継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングのとき利用者全員の状態を確認し合い、接し方を話し合っています。高齢者への虐待、拘束を防ぐパンフレットを活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様はおられない。玄関にパンフレットを置き皆の目が触れるようにしています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用や、関係機関と活用について検討予定の入居者はないが、随時活用を支援するために、パンフレットを整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書を読みながら説明を行っています。また、不安や疑問点なども再度確認して納得していただけるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会中止の連絡とともに本人の近況、行事等の写真を毎月送り家族の要望があれば知らせていただけるようお願いしています。	コロナ禍に配慮し、家族会を中止している。毎月家族に、入居者毎の暮らしぶりなどを写真を同封して報告し、変化は即電話で報告し、意見を伺う機会としている。状態変化等の電話報告に最初は戸惑われた家族も、丁寧な報告に謝辞がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換の機会を設けています。	毎月のミーティングは定例化しているが、定刻を越すほど活発な話し合いが行われ、毎回参加される代表者から、感染予防対策や活発な意見交換などに謝辞があった。職員が交代で書記を勤め、業務分担などを話し合い、職員の提案は「先ずやってみよう」と試行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利益が上がれば臨時手当を支給するようにしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	定年制度はありますが、健康であれば年齢を理由に採用対象から排除しないようにしています。シフトを組む前には希望休を尋ね出来るだけ希望を聞き入れています。	職員などのロコミで、40代～70代まで女性職員が、夫々の状況に応じた時間帯や時間で就労している。希望するシフトを叶え、介護職員処遇改善や特定加算、決算余剰金を賞与や昇給に充てている。提案したケアを試行できる職場なので楽しく働け、入居者の「ありがとう」がやりがいとなっていると、職員は話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで利用者様の状況報告等行い情報を共有するようにしています。	身体拘束や虐待に関する研修会を開催し、毎月のミーティングで入居者への言葉遣いなどについて話し合い、管理者は不適切な言動はその場で指導している。	市から配付された人権に関する多様な視点が盛り込まれたカレンダーなどを資料に、さらなる人権研修や啓発活動を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の働ける日数、時間がありミーティングのときに問題点等を話合っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	あまり出来ていません。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は利用者様に話しかける機会を多く持つように心掛けています。介助中の何気ない会話の中に不安など無いか気に掛けながら接するようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に利用者様に関することなどお聞きして状態把握に努めています。その時に要望・心配事についても確認を行い説明しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴、以前利用されていたサービスなどを聞き取り必要とされているサービスが提供できるのか家族と話し合っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と同じテーブルで話しながら食べています。利用者様が出来る仕事があれば提供し一緒に作業を楽しんでいます。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会の出席、行事参加で本人、家族、職員間で絆を深めていましたが、今年もコロナウイルスで面会が出来ない事もあり、書面や電話で利用者様の状況報告と共に写真も毎月送付しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出は自由にして頂き、利用者様のお友達や親せきの面会や外出も大いに歓迎し、馴染の関係が途絶えないようにしていましたが今年もお断りしています。本人の希望があれば電話はしてもらっています。	新型コロナウイルス感染防止のため、居間の前のウッドデッキのガラス戸越しの面会をお願いしている。面会した家族に遠慮する言動の入居者もあるが、本人を共に支え合う家族との関係作りや関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲を把握し、トラブルが見られたら席替え・移動をしたりして柔軟に対応しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の葬儀や初盆には必ずお参りに行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族の方から生活歴を聞き、入居前の情報も居宅ケアマネや病院のソーシャルワーカーからも収集している。	家族等から得た生活歴や既往症などを基本情報に整備し、全職員で共有している。「同一目線、コールの駆けつけ、傾聴」に努め、再三のコールがなくなったり、「外に行きたい」や「勿体ない」と誰も見ていないテレビを消そうとして車椅子から立ち上がる思いを受け止めている。	ミーティングで得た入居者の思いや意向を整備しているアセスメント表に追記するなどの工夫で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族などから今までの生活歴や馴染の暮らしを詳しく聞き取りしている。また利用者様同士の会話の中から理解を深まることもあります。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングでは個別にケアカンファを行い、心身・身体状況、生活状況の把握に努めています。毎日の申し送りや介護経過からも現状を把握するように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、かかりつけ医などから得た情報等を基にサービス担当者会議やミーティングで検討を行い、個々の介護計画作成に努めています。	毎月のミーティングで全入居者の状況や職員の気づきなどを話し合い、現実には即したケアを実践している。バルンカテーテル抜去後トイレで排泄できた事に、「ありがとう」と感謝する入居者の姿は、職員の励みとなっている。	実践されているケア内容を踏まえた具体的な短期目標の設定でモニタリングを容易にし、より現状に即した計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の朝礼、個別介護記録と介護日誌等で情報を共有しています。ミーティングで話し合い、介護計画を見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて介護計画を見直しています。問題点など見られれば、看護師、ケアマネ、職員の意見を求め解決に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事・地域行事・施設行事等で地域役員、子供会、ボランティアの方々と一緒に楽しんでもらえるように計画を毎年していましたが、今年も新型コロナウイルス感染予防のため行う事ができませんでした。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先するようにしています。当施設のかかりつけ医は往診して頂いています。家族と連携しながら受診を心掛けています。	全入居者が協力医療機関から定期的な往診を受け、報告した状態の変化に指示を受けている。専門科受診は1～2回は職員が対応し、その後は家族に対応をお願いしている。看護職員が健康状態チェックや受診状況を把握し、適切な医療受診に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態把握に努め、少しの変化も看護師、ケアマネに報告・相談しています。看護・介護職員は情報が共有できるよう介護記録や介護日誌に目を通し、口頭での申し送りでも利用者の状態把握に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけ足を運び、情報収集に努めています。今年も新型コロナウイルス感染予防のため面会できませんでした。病院職員とは日ごろから良好な関係が築ける様グループホームの情報も伝え、共有するようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から運営推進会議や家族会で終末期の在り方について話し合っています。重度化する前に病院、家族、管理者等でよく話し合い、事業所のできる範囲を理解して頂き、ご家族の気持ちを優先で話を進めて行くようにしています。	常時喀痰の吸引が必要になったり、熱発で入院をされた入居者もあるが、家族とともに主治医より病状の説明を受け、今後の暮らしを模索している。夜勤1人体制での看取りは難しいが、経口摂取ができる間はホームでの生活を支援したいと管理者は話している。家族会が再開できた際には、終末期の在り方について話し合える事を期待している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に救急マニュアルを作成しおり、直ぐに対応できるようにしています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をしています。日中だけでなく夜間を想定した訓練も行っています。その都度関係各所に連絡行い協力を求めています。	消防署立ち合いの訓練では、火災発生時には非常ベルを鳴らすことや、トイレや風呂場の確認と居室名札の取り扱いについて指導を受けた。水害予測地域に立地しているが、指定避難場所への移動は容易ではなく、代表者からは高台の代表者宅への避難が提案されている。備蓄一覧票で、食品や飲料水などを管理している。	感染が拡大している昨今、感染症対策グッズの整備とともに、今春のクラスター発生時の対応を盛り込んだ自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画の策定を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔で穏やかな対応を心掛け、利用者様が聞き取りやすいようにゆっくりと話しかける様に努めています。訴えに関しては否定することは避け傾聴し本人様の意向を尊重出来る対応を心掛けています。	穏やかに氏名で呼称しているが、馴染み易い下の名前で呼称する入居者もある。時に方言で話す場面もあるが、ウェットに富む会話を楽しみながらも尊厳確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の出来そうな事、喜ばれる事を提供したいと考えています。レクリエーション参加の声掛けを行い、参加は本人様の意向を尊重しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望に沿うように努力しています。特に食事時間、起床・就寝時間は利用者様のその日の体調・ペースに合わせています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪に来て頂いていましたが、コロナウイルス関係で今はほとんど職員で散髪しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には好みを尋ねています。利用者様の誕生会はケーキを食べて頂く、旬の物や畑の野菜で食事を作っています。テーブルを拭いたりして手伝ってくださいます。	入居者に「(このご飯は)いつも美味しい」と好評で、職員は入居者と同じ食卓で同じ食事をしている。咀嚼や認知の状態や症状に応じて、キザミ食にしたり空になった皿はすぐに下げるなどの介助はあるが、全員が自分で食べることができ、全量摂取が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて毎月メニュー表を作成しています。食事・水分量は個人別に記録し把握するようにしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を行っています。訪問歯科も実施していましたが、今年は特に問題があった方のみ受診しました。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、トイレ誘導を行っています。排泄管理表に時間を記入して、尿意・便意の無い方には時間を見て声掛けや誘導を行っています。	車イスで夜間のみオムツを使用している入居者もあるが、トイレは自分でしたいとの思いに応えたり、バルンカテーテル抜去後トイレで多量の排尿や排便があった入居者には、時間毎のトイレ誘導や陰部洗浄、残尿観察などを全職員で共有し、心地良い排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、毎日排便チェックを行い、腹部マッサージや追加便秘薬を施行しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴で週2回以上は入れるように計画しています。入浴拒否見られる方には声掛けの工夫をしたり、翌日に変更するなどしています。	個浴槽が設置されているが、本人の希望でシャワー浴のみの入居者もある。「何で私だけ」等、入浴を拒否する入居者には、傍のトイレ使用後に入浴を促すなどの工夫で、入浴後は「気持ち良い」となっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて午前・午後と臥床対応を行う方もいます。午後の昼寝は強制的ではなく、休まれない方はリビングで自由に過ごして頂き夜眠れるようにしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に合った服用方法で服用して頂いています。薬の変更があった時は様子観察を行い体調変化に気を付けています。内服薬一覧表も各利用者毎にファイルしており、いつでも確認できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る仕事(洗濯物たたみ等)お願いしてお手伝いして頂いています。週刊誌や新聞を読んで気分転換などをされています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月毎の行事で外出していました。今年も計画を立てていましたが、新型コロナウイルス感染防止で外出できませんでしたので、園庭に出て日向ぼっこをしながらのお茶会や、季節感を味わって頂くために季節に沿った花をリビングに置いて、楽しんでいただき気分転換が図れるようにしました。	ホーム日より夏号や秋号には、居間に飾られた色とりどりの紫陽花や近隣の畑の満開の秋桜とともに、活気や笑みがこぼれるスナップが掲載されている。コロナ禍の中、楽しく暮らす支援が展開しているが、「買い物に行きたい」との願いを叶える日を待ちわびている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事ができていないこともあり、個人でのお金の所持はされていません。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から希望があれば電話をかけて取り次いでいます。施設からは本人様の状況報告の際家族の方へ電話をかけて頂けるようお願いの手紙を送付しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生会、運動会などの行事の写真を貼っています。季節感を取り入れた壁の環境整備、利用者様が塗られた塗り絵を展示しています。	玄関には季節の水仙が飾られ、壁には入居後最初の誕生日にドレスアップしお澄まし顔の入居者の写真が並び、日々のスナップも掲示されている。吹き抜けの天井で明るく広い居間は、クリスマスの掲示物や入居者の塗り絵作品が飾られ、ラジオ体操の掛け声が響き、隣の厨房からは美味しそうな匂いやまな板の音が聞こえている。中には廊下や居間をモップ掛けをする入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームや玄関近くにソファを置き、自由に過ごして頂いています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使用されていた家具等を持って来ていただいています。家族写真や、母の日の手紙などを壁に貼られている方もいらっしゃいます。	感染防止に配慮し、居室の視認は行わず管理者からの聞き取りとした。各居室はベットやクローゼットが備え付けられ、自宅から家具やテレビが持ち込まれたり、家族写真を飾る等、夫々居心地良い居室で昼食後寛ぐ入居者も多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置しています。廊下の手すり伝いにリハビリをされている方もいらっしゃいます。トイレや浴室も分かりやすい言葉で書いています。		